

①旭川大学の学部・学科の概要について

旭川大学は、2学部のほか短期大学部と大学院を有しています。各学部・学科の概要及び平成29年度時点における収容定員・現員、定員充足率等は以下のとおりです。

旭川大学をベースとした公立大学の設置に関するアンケート調査 添付資料

学部	学科	学科等の概要	H29年5月1日時点における定員等	卒業生の就職率	就職者の市内企業定着率
経済学部	経営経済学科	S43(1968)年の大学開学以来ある学部です。グローバルな視野とローカルな視点を兼ね備え、地域でフィールド調査を行うなど生きた経済に触れ、実践的に学ぶことを重視し、地域で活躍できる人材を育成します。	定員：400人 現員：327人 充足率：81.8%	90.1%	43.8%
保健福祉学部	コミュニティ福祉学科	国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」の取得をめざし、地域社会の中で生きづらさを抱えている人や困難な状況にある人たちに寄り添い、支援し、地域のまちづくりに貢献できる福祉の専門家を育成します。	定員：180人 現員：107人 充足率：59.4%	94.2%	33.0%
	保健看護学科	国家資格である「看護師」「保健師」の取得をめざし、地域で暮らす誰もが健康な毎日を送れるように、多様な看護の役割やさまざまな場面でのニーズに応えることのできる保健・医療のエキスパートを育成します。	定員：240人 現員：270人 充足率：112.5%		
短期大学部	生活学科 生活福祉専攻	国家資格である「介護福祉士」の取得をめざし、日常生活を送ることに困難がある高齢者や障がいがある方に心身の状況に応じた介護を行い、生きがいをもって毎日を過ごせるようにサポートができる専門家を育成します。	定員：100人 現員：42人 充足率：42.0%	96.4%	60.4%
	生活学科 食物栄養専攻	国家資格である「栄養士免許」が卒業と同時に取得できます。病院や福祉施設、給食センター、保育所などで食事の管理と栄養指導を行う食のスペシャリストを育成します。田植えから収穫まで行う農業体験実習もあります。	定員：100人 現員：99人 充足率：99.0%		
	幼児教育学科	国家資格である「幼稚園教諭2種免許」と「保育士」が卒業と同時に取得できます。子どもの心を理解し寄り添うことができる保育者をめざし、地域での豊富なボランティア体験や実習を通して、人間性や実践力を養います。	定員：200人 現員：177人 充足率：88.5%		
大学院	地域政策研究科	地域を担う人材の実践的な育成を目的に、在職者の方にも通学しやすいよう昼夜開講制で研究の場を提供しています。H29からは地域と関わりがより明確となるよう、研究科の名称を「地域政策研究科」に変更しました。	定員：14人 現員：9人 充足率：64.3%	-	-

※就職率は、平成29年3月に卒業した学生の数値ですが、未就職者の中には大学院等への進学者も含まれます。

②旭川大学の地域に関わる活動事例について

まちづくりに関わる事業

- 豊岡まちづくり推進協議会との交流事業
～地域コミュニティの活性化と住民交流の増大を目指した地域活性化イベントに参加し、世代間交流を促進。
- 世代間交流事業「むかし遊びを楽しもう」
～永山支所や社会福祉協議会等と協働し、大学近隣の地域に居住する高齢者と子どもたちの交流を促進。
- 7条緑道「まちなかキャンパス」事業
～月に1回程度オープンセミナーを開催し、研究成果を発表するとともに交流会を開催。
- 旭川市委託事業「私の未来プロジェクト」
～命の大切さや、親となることの意識を育む機会を出前講義や体験実習による提供。
- 世界にひとつだけの、「君の椅子プロジェクト」
～新しい生命誕生の喜びと幸せを地域で分かち合うため、生まれてきた子ども達に椅子を贈る取組を実施。

まちの分析

- 旭川市と近隣8町の商業構造分析
～小売業に着目し、統計分析や聞きとり調査から、近隣8町における旭川市の果たす役割を研究。
- AEL(あえる)事業
～週末や平日の夜に、市民を対象にした、コミュニティ福祉や経済経営等の身近なテーマや直面する問題を取り上げた講座を毎年開催。
- 旭川大学地域研究所による研究
～地域課題の調査研究のほか、地域再生研究会やシンポジウムの開催など、地域の発展に貢献する取組を実施。
- 冊子「アプカシズム」発行
～旭川中心街の10本の中小路を取材し、「歩いて旭川らしさを」知る冊子を発行し、中小路のノスタルジックな魅力を電子書籍で発信。

③ものづくりデザイン系学部について（検討中）

学部における人材育成像

学部のイメージ

旭川が有する地理的環境や自然環境、旭川家具をはじめとする産業基盤など、豊富な地域資源をフィールドとして活用しながら、感性と創造力を磨き、変化の激しい社会の中でも新たな発想でものごとを創造することができる特色ある学部の設置を検討しています。

- デザインから経営などの幅広い分野の修得により、創造的で自律した人材を育成します。
- 地域が抱える様々な課題を発見し、多角的かつ複合的にアプローチし、柔軟な発想を持って解決策を導ける人材を育成します。
- 国内のみならず、世界に目を向けることのできる広い視野と深い洞察力を備え、グローバル社会に適應できる人材を育成します。

④経営シミュレーションについて

右の表は、現在の旭川大学を公立化した場合の経営状況をシミュレーションしたものです。

〈前提条件〉

- ・公立化した以降の学生数は、平成28年度の大学と短大を合わせた定員数1,254人（定員充足率が100%）となった場合をn年度として試算しています。
- ・入学金や入学検定料、授業料については、道内の他の公立大学や類似の公立短大の額などを基に設定し、経常費補助金については、現在の旭川大学と短大の学科を基に国から市に地方交付税として交付される額と同額を、市から大学に対して交付することを想定しています。
- ・支出については、平成28年度の大学と短大を合わせた額と同額としています。

〈シミュレーション結果〉

平成28年度決算の収支がマイナス約9,100万円だったものが、公立化した場合のn年度ではプラス約3億5,000万円となると見込まれます。

項目	公立化前	公立化後
	平成28年度	n年度
入学定員充足率	81.1%	100.0%
学生数(人)	1,018	1,254
学生納付金(千円)	1,056,657	918,943
手数料(千円)	15,214	8,912
経常費補助金(千円)	256,544	844,116
その他(千円)	54,151	54,151
教育活動収入計(千円)	1,382,564	1,826,200
教育活動支出計(千円)	1,473,646	1,473,646
収支差額(千円)	▲91,083	352,475

※千円未満切り上げのため、合計が一致しない場合があります。

参 考

⑤市への要望書提出の経過について

日付	内容等
平成23年11月	旭川に公立「ものづくり大学」の開設を目指す市民の会から要望書提出（要望要旨） 豊かな自然を有する旭川地域の独自性を強く打ち出し、デザイン、木工芸、建築関連、金属工芸、農業、食品関連産業など、広く「ものづくり」を建学の精神に据えた公立大学開設に向けて具体的にご検討いただけますようお願い申し上げます。
平成24年11月	旭川に公立「ものづくり大学」の開設を目指す市民の会から要望書提出（要望要旨） 平成25年度の旭川市予算に公立「ものづくり大学」についての調査費を計上し、議論の場をつくって下さい。
平成25年2月	旭川大学から要望書提出（要望要旨） 旭川市におかれましては、公立大学設置を検討するに当たって、本学園が有するこれまでの大学経営と実績を評価された上、道北の中核市として次世代のための新たな大学の在り方を本学園と共に再創造するための協議をさせていただくことを要望するものです。
平成28年2月	旭川大学から要望書提出（要望要旨） 旭川市長におかれましては、かかる本学園の置かれた状況、使命と役割にご理解と共感をいただき、旭川大学の公立大学法人化を推進くださいますようお願いするものです。